

## 第5回子ども樹木博士リーダー交流会（概要）

平成19年12月9日（日）14:00～17:00

東京農工大学（東京都府中市）

参加者：19団体・40人

- 1 はじめに、当協議会の会長である木平勇吉先生（東京農工大学名誉教授）から開催に当たっての挨拶があり、活動報告等は木平会長の司会進行により進められました。



- 2 ご来賓としてご出席いただいた林野庁計画課森林総合利用・山村振興室の高木鉄哉課長補佐から、ご挨拶をいただきました。

- 3 活動報告では、

東京都の夢の島熱帯植物館の玉木恭介館長から、パワーポイント（以下「PP」という。）等を用いて、「夢の島公園 森の学校」、「子どもしぜん科学大賞」の取組や各種のイベントをはじめとする植物館でのさまざまな活動、運営状況等について、

東京農工大学の渡辺諒さん（4年生）から、PPにより、卒業論文のテーマとされている小学生向けの活動プログラム、「対戦型カモフラージュ」、「葉っぱジャンケン」、「光合成ゲーム」、「五感をきたえるゲーム」等の開発について、

府中第一小学校の中嶋眞美子先生から、同様にPPを使って、東京農工大学の渡辺先生や学生さんの協力の下で実施されている生徒や保護者、そして先生方も対象とした「植物マイスター」（子ども樹木博士）の取組状況について、それぞれご報告をいただきました。

特に、玉木館長からは熱帯植物館ならではのスコール体験等の個別プログラムのこと、渡辺さんからはさまざまなプログラム開発への取組のこと、そして中嶋先生からは学校をあげての取組、「スペシャルマイスター」といった新しいアイデアの

ことなど、それぞれに大変に興味深いものがありました。

- 4 次に、今回の交流会の野外プログラムとして、参加者全員が1グループ当たり6人程度、7グループに分かれ、東京農工大学大学院の麻生崇士さんの指導により、「子ども向け樹木の炭素固定量測定」の実習を行いました。

先ず教室で測定方法等について座学を行い、対象とする樹木の樹高や幹の半径の測り方、幹の質量や炭素量の算出、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の発生量の計算等を勉強しました。それから屋外での実習を行いました。

屋外では、それぞれのグループが目指す樹木を決めて、樹高や幹の半径等を測定



しました。例えば、樹高が29mで、胸の高さの幹の直径が90cmのメタセコイヤでは、幹の体積は約6立方mで、その質量は約1.9トン、炭素量は約0.95トンになり、この木が燃えたり、腐ったりすると、CO<sub>2</sub>は約3.4トン発生することになります。

因みに、人の1日の呼吸で排出されるCO<sub>2</sub>は0.2kg、乗用車が10km走ると2.3kg、風呂1回で1.1kg、そして日本人の1日の生活では40kgくらいのCO<sub>2</sub>の排出量になるそうです。

- 5 最後に、参加者全員により、先の活動報告等について意見交換を行いました。

小学校でのより具体的な実施についての質問や意見、特に、学校の先生は忙しすぎるとか、もっと樹木のことを話せるようになることが必要であるとか、校庭に樹木の名札をつけること、その名札はその場にあったもの、統一されたようなものであること、また、名札でなくて樹木の位置図をつくるのがよいといった意見、そのほか、子ども樹木博士を企画・実施する時にコーディネーター的な対応ができる者が必要であるといった意見もありました。